

(4) 都市型農業を活性化させるための業務

ア. 消費者を生産者の現場へつなぐバスツアー事業

- 1) 消費者がいつも食べている野菜の生産現場を訪れ、農業者と交流する企画を実施しました。
- 2) 札幌市内近郊の農家をめぐるバスツアーを年間 4 回の予定でしたが 3 回実施となりました。
- 3) 現場では、生産過程の説明や、生産方法の工夫などを伝えるとともに、実際の農家ならではの調理法を実演、試食し、消費者に伝えていただきます。
- 4) 消費者の好みなどを実際に聞き取ることで、新品種や新作物に挑戦し、消費者のニーズに応え、栽培技術の確立に生かしていきます。

イ. スマート農業勉強会の立ち上げ

- 1) さとらんど内に、スマート農業勉強会を発足させ、市内近郊の若手農業者や、新規就農者等とスマート農業の可能性について、検討を始めたところです。
- 2) 今後はさとらんどセンター内のレストランにコワーキングスペースを設置し勉強会の場として、活用していくことを模索しています。

(5) 農業に関する情報の収集・提供業務の実施計画

ア. 農業に関する情報の収集・提供業務

- 1) 農業、園芸関連の定期発行雑誌（ニューカントリー、現代農業、趣味の園芸など）や絵本を購入して、レストラン内に図書コーナーを設けて、開架し、市民への農業情報の提供を行いました。
- 2) 札幌の農業施策、食農教育の情報として、畑作農家、その他農業に係る情報（札幌の農業、農産物紹介、札幌伝統野菜の札幌黄（玉ねぎ）の歴史など）について「デジタルサイネージ」を使い、来園者へ紹介・掲載しました。
- 3) ホームページ上に、農作物について、標準的な栽培方法、品種の特性、レシピについて掲載しました。
- 4) 園芸相談にて、蓄積された作物栽培に関する情報を整理し、よくある質問を Q&A 方式でホームページ上に公開しました。
- 6) 札幌保健医療大学や小樽商科大学などから園芸の普及等について積極的に連携し、新しい農業のについて情報を共有しました。

イ. 農業振興イベント業務

1) 季節開催のイベント

1) 季節開催のイベント

農畜産物への理解を深め、「地産地消」への認識・理解を促進するイベント事業を実施した。令和 5 年度は、主催するイベント 18 回開催した。

〈開催イベント〉

	イベント名	日程	期間	入園者数
1	オープニング・スプリングフェア 2023	4/29、30・ 5/3～7	7日間	147,600人 (間の平日含む)
2	さとの苗もの市 2023	5/19～21	3日間	12,020人
3	さとのミルクフェア	6/3、4	2日間	2,800人
4	さとらんどジギスカンまつり	7/15～17	3日間	20,940人
5	メロン&スイーツフェア	7/29、30	2日間	10,600人
6	さとのキャンプフェア	8/11～13	3日間	16,700人
7	さとの夏祭り	8/19、20	2日間	15,700人
8	さとの収穫祭 2023	9/16～18	3日間	47,000人
9	たまねぎフェア 2023	9/23、24	2日間	17,800人
10	さとのパンプキンフェア 2023	10/7～9	3日間	29,700人
11	さとの新米・新そばフェア 2023	10/14、15	2日間	20,900人
12	肉肉まつり	11/3	1日間	3,900人
13	さとの鉢花まつり 2023	11/18～26	8日間	2,260人
14	さとのクリスマス	12/17	1日間	1,500人
15	さとの冬まつり	1/14	1日間	4,900人
16	新春さとらんどジギスカンデー	1/20、21	2日間	2,200人
17	さとのもちつき体験会	3/3	1日間	1,100人
18	さとのお茶会	3/30、31	2日間	1,790人
	計			359,410人

① さとらんどスプリングフェア

期間中は5日の朝方の雨が降った以外は天候に恵まれ、3日から5日は気温が上が
り、来園者数もピークとなり大変多くのお客様で賑わった。

特に木製アスレチック遊具広場のオープンに合わせ、交流館側の来場者が激増した。
29日のオープニングフェアでは、センターホールで演奏会やもちまきを開催、その
他各アトラクションご利用者に粗品をプレゼントし、夏期営業スタートをPRした。
3日から7日のスプリングフェアでは、園内をまわってクイズに答えるクイズラリー
やビンゴ大会を開催し、多くのご家族連れに参加いただいた。



② さとの苗もの市

コロナ禍のため4年ぶりの開催となった「さとの苗もの市」。コロナ禍以前は土曜日から9日間の開催だったが、今年は初日を金曜日として3日間開催した。野菜やハーブ、花の苗を約100種類約20,000ポット取り揃えて販売体制をとった。また、園芸相談員が会場内を巡回して来場者の栽培に関する質問、疑問に対応した。開催初日は、平日にもかかわらず、開店前から入口に列ができた。2日目も開場前に列ができ、来園者は多かったものの、苗もの市への客足は伸びなかった。3日目は朝から雨模様となり、客足はまばらだった。3日間とも客足は伸びなかったが、終日途切れることはなかった。



③ さとのミルクフェア

初の開催となったイベント「さとのミルクフェア」。6月が牛乳月間ということで、牛乳消費拡大も含め、全道から牛乳を取り寄せPR販売や種類の違う牛乳の飲み比べを行なうとともに、牛乳と野菜を使ったレシピを紹介するなどした。

2日間ともあいにくの雨模様となったが、牛乳が好きなお客様が多数訪れた。

また、初開催だったが、酪農と農業には深い関りがあることを知り、伝えることができ、大変有意義なイベントになった。



④ さとらんどジンギスカンまつり

初の開催となったイベント「さとらんどジンギスカンまつり」。北海道の代表的な食文化であるジンギスカンを札幌黄たまねぎや当別産の米とともにPRして販売した。ジンギスカンは道内各地(帯広、北見、滝川、札幌)の有名店のジンギスカンを販売。イートインでの販売と冷凍販売を行なった。その他、クイズ大会も行われた。



⑤さとのメロン&スイーツフェア

初の開催となったイベント「さとのメロン&スイーツフェア」。横浜植木㈱が開発したメロンの品種である赤肉メロン「クインシー」石狩産と青肉メロン「クレセント」雨竜産をPR販売しながら、スイーツを合わせてイベントを行なった。試食コーナーとカットメロン販売コーナーでは皆さんが「美味しい!」「甘い!!」と大変好評だった。北海道では“夕張メロン”の赤肉メロンが有名だが、青肉メロンの魅力もPRできたと感じた。

札幌市に熱中症警戒アラートが発表される中、多くのお客様に来場いただいたが客足は伸びなかった。



⑥さとのキャンプフェア

初の開催となったイベント「さとのキャンプフェア」。さとらんど Harvest Camp がオープンしたこともあり、キャンプで役に立つワークショップや薪割り体験、ペグ打ち体験の他、キャンプ飯の紹介をして、「食」や「体験」へアプローチすることができ、有意義なイベントになった。



⑦さとの夏祭り

4年ぶりに開催した「さとの夏祭り」。さとらんど市場と丘珠まるしえをメインに夏野菜をPR販売するとともに、ガラポン抽選会を行ない利用促進を図った。

また、祭りの装飾をして、様々な縁日で盛りあげ、多くのお子様連れに来場いただき、お子さまが楽しめる内容が大変好評だった。



⑧さとの収穫祭 2023

食と農への関心を高め、地産地消や SDG s への取り組みを P R する他、今年は木育ワークショップを行ない、さとらんど事業を P R した。また、4 年ぶりに開催した野菜詰め放題には、連日開場前から列ができ、大変好評だった。さとらんど市場と丘珠まるしえでは、収穫の秋を感じさせる農産物が多数そろい、こちらも大変盛況だった。また、昨年から東区役所地域振興課のご協力で、東区の P R や東区特産の札幌黄たまねぎの P R などを行なえたことはとても有意義だと感じた。



⑨たまねぎフェア 2023

たまねぎ栽培の歴史等のパネル展示を行ないながら、札幌黄たまねぎメインに P R した。

J A さっぽろ青年部によるたまねぎ詰め放題や昨年から実施している J A さっぽろ女性部の豚汁販売は、大変好評だった。また、さとらんど職員で実施した札幌黄たまねぎを使ったスープも大変好評だった。

さとらんど市場では、札幌黄たまねぎ 5kg 箱を 100 箱、10kg 箱を 200 箱、小袋を約 500 袋がほぼ完売した。丘珠まるしえでは、収穫の秋を感じさせる農産物が多数そろい、こちらも大変盛況だった。昨年に比べ札幌黄の購入数がまた増えてきた傾向がみられた。贈答用、ご自宅用ともに子育て世代の購入が増えたように感じた。また、札幌黄の認知度も向上していると感じる。



⑩さとのパンプキンフェア 2023

旬のかぼちゃをメインにスープの販売やおもちゃかぼちゃを利用したフラワーアレンジメント教室、ビンゴ大会、巨大かぼちゃ重量当てゲーム等を行ない、P R した。

さとらんど市場では、札幌市近郊の約 30 種類 600 個以上のかぼちゃを取り揃え販売し、完売した。ファーマーズマーケットでも収穫の秋を感じさせる農産物が多数そろい、こちらも大変盛況だった。



⑪さとの新米・新そばまつり 2023

今の時期ならではの新米と新そばを飲食コーナーをメインに PR した。

さとらんど市場では、道内 11 市町村から 6 品種の米を 5kg、3kg、2kg 袋計 249 袋取り揃え販売した。2 日間で 9 割近くが売れた。ファーマーズマーケットでも新米はもちろん、収穫の秋を感じさせる農産物が多数そろい、こちらも大変盛況だった。

その他、新米 2 種類(ゆめぴりか・ななつぼし)の食べ比べセットの販売、天使大学栄養学部の学生さんによるパネル展示やクイズ大会を行ない PR した。



⑫さとの肉肉まつり 2023

初開催となったイベント「さとの肉肉まつり」。

飲食コーナーをメインに肉を楽しめるイベントとした。

クイズラリーでは、動物や食に関するクイズを出題し、子どもたちに食への関心を高める内容とし、たくさんの家族連れに参加いただいた。

例年になく 20 度近く気温があがったものの強風の中ではあったが、昼前から各ブースには列ができ、全て完売で終了した。また、交流館内で同時開催していたイベントやさとらんど農園部門の焼き芋や農産物販売と相まってたくさんの来場者があり、賑わった。



⑬さとの鉢花まつり 2023

夏期営業が終了し来園者が減るこの時期に、鉢花でホールを彩り初開催したこのイベント。来園者の多くは、小さなお子様連れのご家族で、花に興味があるものの購入される方は少なかった。クイズラリーやワークショップを行なったことや装飾として設置した巨大クリスマスツリーや花と一緒に写真を撮る方がとても多く、購入していただく形ではないが、違う角度から PR できたのではないかと思います。



⑭さとのクリスマス 2023

5年ぶりに復活したクリスマスイベント。

12月は冬のアクティビティもなく、来園者が激減する時期ではあるが、ステージイベントを随時開催したり縁日コーナーを設けたりするなど、1日楽しめるように工夫し、たくさんの家族連れで賑わった。



⑮さとの冬まつり

今年で3日目となるイベント「さとの冬まつり」。

天候にも恵まれ、イベント開始前から続々と家族連れが訪れた。

今年ももちつき体験は大変好評だった。ステージイベントも1日かけて開催し、観覧型と参加型で企画したが、盛況だった。



⑯新春さとらんどジンギスカンデー

初開催のこのイベントは、冬でも屋外で食を楽しみ、冬にしか味わえない体験として実施した。気温が氷点下10度近くとなり、まさに冬の屋外ジンギスカンを味わえる体験となった。



⑰さとのもちつき体験会

初開催のこのイベントは、桃の節句に合わせてもちつきを行ないお米文化や日本の行事文化を体験していただき、食や農への関心をたかめることを目的として開催した。100組253名の参加者となった。実際のきねとうすを見たことや使ったことがない小さなお子様が多く、重たいきねを一生懸命持つ姿が印象的だった。また、ご夫婦のみで参加された方もいた。

このような昔ながらの体験を行なうことでお米からもちができることやもちつきの

歴史等を知るきっかけづくりになったのではないと思う



⑮さとのお茶会

初開催のこのイベントは、お茶を点てるところを間近で見てもらい、簡単な体験を通じて日本の文化や行事文化の啓発を目的として開催した。簡単な茶席体験を開催したが、興味を持っていただける方が多く、このような体験ができることを喜んでいただいた。あわせて、琴の演奏会も開催したが、普段生で見ること、聞くことが少ないこともあり、貴重な時間となり、おだやかな空間となった。このような体験を行なうことで茶道を含め、日本の文化を知るきっかけづくりになったのではないと思う。



2) 誘致・共同開催イベント

誘致・共同開催イベントは、食や農の振興に寄与すると思われるものを以下のとおり実施した。

① 北海道春のご当地カレーまつり 2023

開催日：4/29・30、5/3～7

主催：カレーのマチさっぽろ推進委員会、北海道ご当地カレーエリアネットワーク

会場：さとらんどセンター2階 さとのスープカレー店

入園者数(全体)：139,700人

内容：札幌のスープカレー店は毎日、ゲストエリアからのカレー店が日替わりでご当地カレーを提供。今年ゲストエリアは、士別サフォークカレーと苫小牧ホッキカレー、かみふらのポークカレー、札幌老舗店コロンボ。その他に、カレー教室やワークショップも開催。

7日間各店の合計販売食数は2,291食だった。

② 北海道ガストロノミックサイエンス研究会第2回セミナー

開催日：6/19

共催：チャレンジフィールド北海道、北海道ガストロノミックサイエンス研究会、
さとらんど fan コンソーシアム

会場：さとらんど交流館

内容：テーマは「食文化・食素材からみる北海道の可能性」

スペインでバスク料理を学んだシェフやフランスのチーズ農家で学んだシェフ等農・食化学など各分野のスペシャリストによるトークセッションが行われ、様々な意見が飛び交った。

セミナー参加者は、110名。内訳は、企業等70名、大学関係10名、個人6名、自治体14名、団体等10名。

③ 第7回札幌ガレット祭り

開催日：6/24、25

主催：北海道ダッタンソバ生産者協議会

会場：さとらんど交流館

入園者数(全体)：26,000人

内容：道産ダッタンソバを使用したフランス料理のガレットを紹介し、手軽に楽しんでいただけるガレット料理を提供。その他、ガレット手作り教室を行なわれた。

④ あそびとおもちゃの広場 ピタゴラスの森 in さとらんど

開催日：7/1

主催：合同会社森のピタゴラス

会場：さとらんど交流館

入園者数(全体)：1,700人

内容：木製のおもちゃや木材を利用した活動に触れる機会を提供。木材や森林の価値や利用の意義等の理解促進を図る「木育」イベント。

木育おもちゃの体験コーナーやワークショップ、薪割り体験等が行われた。

⑤ 夏休み子ども体験デー

開催日：8/3

主催：国土交通省北海道開発局、農林水産省北海道農政事務所、農林水産省横浜植物防疫所札幌支所、農林水産省動物検疫所北海道・東北支所、林野庁北海道森林管理局、水産庁北海道漁業調整事務所

会場：さとらんど交流館

入園者数(全体)：1,200人

内容：北海道の基幹産業である農業・林業・水産業の他、動物や植物に関する体験を通して、親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに自然社会を広

く知る体験活動の機会を提供。各機関によるワークショップやクイズ等が行われた。

参加人数は、午前の部 42 名、午後の部 52 名で合計 94 名。

⑥さとらんどアグリフェスティバル

開催日：9/2、3

主催：さとらんどアグリフェスティバル実行委員会

(株北海道 150 年ファーム、(株)リージョナルマーケティング、さとらんど fan コンソーシアム)

会場：さとらんど交流館

入園者数(全体)：20,600 人

内容：農業と食の推進イベント「アグリフェスティバル」と道内の農業高校が主役「ALL HOKKAIDO 食の学校祭」の同時開催。様々な視点を通して“農業理解者の育成”を図り、農業の価値をあらためて見つめなおす機会を提供。フードロス問題などをあらためて考えるきっかけの場を創り、親子のふれあいを深めるために様々な体験やワークショップが行われた。

⑦第 18 回日本ダッタン新そば祭り

開催日：9/9、10

主催：北海道ダッタンそばの会

会場：さとらんど交流館

入園者数(全体)：28,000 人

内容：有機栽培もしくは農薬及び化学肥料を用いないで生産された北海道産ダッタンソバ「満天きらり」の消費拡大を図り、ダッタンソバに関する知識を広めるとともに関連する優良商品の推奨などの啓発活動の場として、ダッタンソバ粉を使用した各種そばを提供。その他にもそばの実の石臼挽き製粉たいけんやそば打ち有段者のそば打ちデモンストレーションが行われた。

⑧アンパンマン交通安全キャラバンinさとらんど

開催日：9/9、10

主催：JA さっぽろ・JA いしかり JA 共済アンパンマン交通安全キャラバン実行委員会

会場：さとらんど交流館外周

入園者数(全体)：28,000 人

内容：子どもに人気のアンパンマンと仲間たちがキャラバンカーで登場し、交通安全を PR。また、JA 組合員の新鮮野菜を販売した。
キャラバンステージショーの参加者は、9 日 1,313 人、10 日 1,901 人。

⑨グリーンウォーク 2023 inさとらんど

開催日：9/18

主催：株式会社 S T V ラジオ

会場：さとらんど交流館外周

入園者数(全体)：12,000 人

内容：親子で楽しめるウォーキングイベントで健康促進を P R。園内をラリー形式でウォーキングを行なった。169 組 678 名の参加があった。

⑩道民森づくりの集い 2023

開催日：10/22

主催：北海道、北海道森林管理局、札幌市、公益社団法人北海道森と緑の会

会場：さとらんどセンターと交流館

入園者数(全体)：2,700 人

内容：森づくりの大切さや木材利用の意義について広く知っていただく場を提供。

木育マイスターによるワークショップ、スタンプラリーやツリーイング等が行われた。その他、森林づくりのパネル展示や木製品の販売も行われた。

また、今年は、「北海道植樹の日・育樹の日」制定 5 周年ということで、北海道知事や北海道議会議長等が参加する道民ひとり 1 本植樹・育樹運動キックオフイベントも同時開催された。

⑪サステナブルマーケット 2023 inさとらんど

開催日：10/29

主催：オイシックス・ラ・大地株式会社 札幌ステーション・札幌営業所

会場：さとらんど交流館

入園者数(全体)：6,000 人

内容：安心・安全な美味しい食べ物を生産する農家やメーカーが参加し、「顔と顔が見える関係」の場を提供。試食等も行ないながら、生産者やメーカーと消費者との交流が印象的だった。

⑫全国高校生花いけバトル 北海道大会 inさとらんど

開催日：11/3

主催：一般社団法人花いけジャパンプロジェクト

会場：さとらんど交流館

入園者(全体)：3,900 人

内容：農業の一端を担う花きを使って、高校生による花をいけるバトルが行われた。

この大会は、1 チーム 2 名で制限時間 5 分間で決められた花材で花をいけ競う。

優勝チームは、札幌国際情報高等学校「霞草」チームで、2 月に香川県で行われる決勝大会に参加。今大会は、8 校 20 チームの参加があった。

⑬厳寒！！北海大鍋まつり in さとらんど

開催日：1/26～2/2 ※1/29 は休園日

主催：JFE テクノス株式会社

会場：さとらんどセンター前

入園者数(全体)：13,940 人

内容：道内各地のご当地鍋 5 種類を直径 90cm の鍋を使い調理、提供。

5 種類の鍋は、石狩地方の「石狩鍋」、北海道全域で親しまれている「いもだんご汁」、道東地方の「てっぼう汁」、札幌発祥の「スープカレー鍋」、赤平の「ホルモン鍋(通称ガンガン鍋)」を用意。地元の食材を使用し提供した。

5 種類のレシピは、札幌保健医療大学、天使大学、北海道文教大学、藤女子大学の学生が考案。5 種類 7 日間合計 3,667 食販売した。

このイベントは、令和 5 年度付加価値の高い観光コンテンツ事業補助金(札幌市経済観光局)の採択事業。

⑭ Magic hour in Sapporo さとらんどかまくらイルミ

開催日：2/12～18 ※2/13 臨時営業

主催：JFE テクノス株式会社

会場：さとらんどセンター前

入園者数(全体)：14,380 人

内容：日本古来の雪遊び「かまくら」に着目。イルミネーションを施し、冬のアクティビティに加え、冬期間の集客力を高めるために開催。大かまくら 8 基、小かまくら 32 基を制作し、イルミネーションを施しライトアップした。

期間中は、午後 7 時まで営業し、特製カレースープの提供の他、ランタンづくりのワークショップも行なわれた。また、東区地域振興課のご協力ですべてのキャラクター「タッピー」の雪像も製作した。

このイベントは、令和 5 年度付加価値の高い観光コンテンツ事業補助金(札幌市経済観光局)の採択事業。

⑮ おさがりくるりん×nipocafe

開催日：2/3

主催：一般社団法人相互支援団体かえりん、札幌保健医療大学 nipocafe サークル

会場：さとらんどセンター

入園者数(全体)：390 人

内容：託児付き栄養チャージカフェ nipocafe では、札幌保健医療大学の管理栄養士を目指す学生がレシピを考案から調理、提供までを行なった。託児には、キッズコーナーを利用し、食育と木育の場を提供。また、家計費負担減と共にゴミの削減等 SDGs の取り組みとして、90 サイズまでの衣料品のおさがり譲渡会が行われた。

nipocafe の参加者は、大人 17 人、子ども 18 人。おさがり譲渡会には、25 世帯 70 名の参加があった。

(6) 農業に関する研修、講座等の場の提供業務の計画

ア. 市民農業講座に係る企画・運営

1) 実施方針

市民への新鮮で安全な農産物の供給を始め、市街地周辺における緑地保全、市民の憩いや生きがいの場、教育の場など、農業が持つ多面的な機能が見直されています。それとともに、「食」や「農」に対する市民の関心が高まっています。

札幌市の市民農業講座「さっぽろ農学校」の方針である、さっぽろ農業応援団の育成を目指して、さっぽろ農学校入門コース、さっぽろ農学校専修コース、そして栽培講習会を実施します。

2) 実施状況

① さっぽろ農学校入門コース

家庭菜園や市民農園を楽しみたい方を対象に、野菜等作物栽培について室内講義にて学びます。

募集内容

講座内容：期間 4月9日から8月27日（日曜日）

回数 18回

時間 第1講 9時30分から10時30分

第2講 10時45分から11時45分

コース定員：70名（応募者多数の場合は抽選により受講者を決定）

受講料：8,000円（全期間、テキスト代を含む）

会場：サッポロさとらんど視聴覚室

対象：15歳以上で講座開設期間を通じて受講可能な方

応募方法：募集期間 2月10日から3月15日まで

申込方法：札幌市ホームページからのお知らせ、サッポロさとらんど、各区役所で配布する募集案内チラシ、往復はがきで申し込む

農学校入門コースの応募者数と競争倍率

	令和3年	令和4年	令和5年
定員	70	70	70
有効応募者数	92	116	163
倍率	1.31倍	1.65倍	2.32倍

令和3年は新型コロナ感染拡大のため、中止となりました。
(4/11～7/18 実施)

② さっぽろ農学校専修コース

専用圃場を利用した実習や講義を通じて、作物栽培の知識と技術、実際の作物の栽培計画から栽培方法、収穫販売までを学ぶことで、基礎的な農業知識や技術を身に付けていただきます。

募集内容

講座内容 : 期間 4月8日から10月29日(土曜日)
回数 土曜日30回、水曜日12回
時間 9時から15時(開催日により異なる)
コース定員 : 24名程度(応募者多数の場合は抽選により受講者を決定)
受講料 : 48,000円(全期間、テキスト代、種苗代、農業資材を含む)
会場 : 札幌市農業支援センター、さとらんどセンター視聴覚室
対象 : 15歳以上で講座開設期間を通じて受講可能な方
応募方法 : 募集期間 2月10日から3月13日
申込方法 : 札幌市ホームページからのお知らせ、サッポロさとらんど、各区役所で
配布する募集案内受講申込書により応募

農学校入門コースの応募者数と競争倍率

	令和5年
定員	26
有効応募者数	26
倍率	1.0倍

販売実習(チカホ)

	令和4年	令和5年
日時	9月10日(土)	9月9日(土)
販売金額	¥247,200	¥263,300

令和5年度より札幌市農業支援センターよりさとらんどへ業務が移管され、初めての運営となった。実習と講義それぞれ実施し、炎天下の実習では講師・受講生の体調管理に努め行いました。前年度の販売実習と同じチカホで販売を行い、263,300円の売り上げとなりました。次年度は荷物の搬入・準備の観点からさとらんどセンターでの実施を予定しています。受講生26名全員が修了生しました。そのうち5名が農体験リーダーに登録し、次年度より依頼先の学校へ派遣を予定しております。

3)栽培講習会

栽培講習会は、1講座完結型とし、5月～9月の間、計8回開催しました。

講座内容 : 期間 5月から9月の日曜日

時間 13時～14時

会場 : 収穫体験圃場、市民農園内モデル農園など

イ. 農体験リーダー派遣運用

1)実施方針

さっぽろ農学校の修了生など、一定の農業技術や知識を習得した市民の方で札幌市に認定された「農体験リーダー」を、学校等において農業体験などの学習会へ派遣します。

2)実施状況

- ①農体験リーダーの登録・派遣管理を行いました。
- ②派遣を希望する学習会等の主催者と調整し、学習会等の内容を確認したうえで、派遣する農体験リーダーを決定し、派遣先との連絡を行いました。
- ③派遣は、原則として1主催者あたり年6回までとしました。
- ④1回の派遣時間は概ね2時間程度でした。
- ⑤派遣された農体験リーダーが適正な活動を行った記録として、派遣先の担当者から実施報告書の作成・送付をしていただきました。
- ⑥農体験リーダーには、活動費として1回あたり2,000円を支給しました。

農体験リーダー派遣実績

	令和5年
派遣学校・NPO	35
派遣総回数	183
参加総人数	5,351

令和5年度より札幌市農業支援センターよりさとらんどへ業務が移管され、初めての運営となった。学校側と農体験リーダーとの連絡がつかないといったトラブルがあったが、聞き取りを行い対処しました。個々の学校での授業や作業内容が異なるため、今後も3者での対応が必要になると思われる。依頼先からの要望で過大な要求があった場合は、さとらんど事務局へ連絡・相談をいただくよう努めました。

ウ. 園芸相談業務

1)実施方針

来園者、市民農園利用者を含めた一般市民からの野菜や花き栽培に関する相談に広く対応できる体制を設けます。

2)実施状況

- ① 市民農園利用者に対しては、日常の巡回の中で、質問、相談を常に受付けます。
- ②特に土、日、祝日は、利用者が多いので、10時から16時まで、現地での相談に応じました。
- ③市民農園に隣接して、栽培見本園(100㎡)を作り、利用者の参考にしていただくとともに、現物を見ながらの相談ができることとしました。
- ④農園グループの職員は、誰もが、相談員業務ができるよう、OJTを行いました。
- ⑤相談内容を分類し、積み重ね、今後の相談に生かせるよう努めました。
- ⑥一般の来園者に対しては、受付にて、相談業務を行いました。
- ⑦また、HPには、栽培のQ&Aを掲載することとしました。

エ. 貸室管理用務

1)実施方針

貸室業務にあたっては、条例、規則、取扱要領などに基づいた料金設定、使用時間、使用内容を遵守した施設の使用承認を行い、適正な貸室業務を行いました。

2)実施手法

- ①さっぽろ連携中枢都市圏の農協などに対し、さとらんどに視聴覚室や農産加工、畜産加工のできる貸室があることを伝え、農業関係団体には料金の減免があることを積極的に情報発信いたしました。
- ②ホームページなどにより、貸室の紹介を行い、広く多くの人に公平な利用を促しました。
- ③イベントを誘致することにより、イベント会場としての利用を促しました。

(7) その他さとらンドの設置目的を達成するために必要な業務の実施計画

ア. 農業支援センターで生産された農産物等の売払い

1)実施方針

農業支援センターで生産された農産物等のうち余剰分について、札幌市と協定を交わして、さとらンドの施設利用者に対して販売を行いました。

2)実施状況

- ①農業支援センターの農産物は、栽培方法、栽培過程が事前に確認でき、センターハウスで販売する際には、その旨を記載し、野菜の特徴なども載せたポップ (POP) を取り付け、販売しました。

イ. 冬期施設活用事業

さとらんど冬季閑散期の利用者の利便性向上と来園者の増加を目的に開催した。

1)馬橿の運行

開催場所 :かぜのはらっぱ上段

運 行 日 : 1月6日からの冬休み期間と2月の土日、祝日 月曜日休館

運行時間 : 11時~11時30分、13時~14時30分

所要時間 : 約5分、で随時運行

定 員 : 16名

乗降場所 : かぜのはらっぱ上段

料 金 : 大人400円、子ども200円

1月6日~2月25日迄の利用者数は2,940人。前年度(令和4年度2,430人)に比べて510人(約12%)増加した。

増加の理由は広報の充実とイベントがかさなったためと思われる。

2)タイヤチューブの貸出し

利 用 日：1月6日から2月25日まで月曜日休館

利用時間：10時から12時、13時から15時

貸出し数：10ヶ（30分交代）

料 金：無料

3)そり山とチューブそり山の造成と開放

利 用 日：1月6日から2月25日、月曜日休館

利用時間：10時から16時

4)ふれあい牧場家畜舎の開放

冬期間も家畜舎を開放し、冬季間の馬や羊・山羊の過ごし方や行動夏には見れな
元気な様子を間近に見ていたことを目的として開放を実施

開放期間：1月6日から2月25日まで月曜日休館

開放時間：10時から15時

5)バナナボート運行

かぜのはらっぱ下段から時の広場放牧場を経由して1周800mのコースをスノ
ーモービルでけん引したバナナボートに乗車し楽しんでいただく

開催場所：かぜのはらっぱ下段

運 行 日：1月6日からの冬休み期間と2月の土日、祝日 月曜日休館

運行時間：10時～12時00分、13時～15時00分

所要時間：約5分、スノーモービル2～3台で随時運行

定 員：バナナボート1台4名乗車

乗降場所：かぜのはらっぱ下段

料 金：大人400円、子ども200円

1月6日～2月25日迄の利用者数は11,139人。前年度（令和4年度8,460人）
に比べて510人（約131%）増加した。

増加の理由は広報の充実とイベントがかさなったためと思われる。

6)トラクター遊覧

さとらんどセンター前からラベンターの丘を経由するコースをトラクターに取り
付けした台車に乗って1周するコースで左右にはバナナボートや馬櫓を見ることが
できる1周800mのコース

開催場所：さとらんどセンター前からラベンターの丘通じる園路

運 行 日：1月6日からの冬休み期間と2月の土日、祝日 月曜日休館

運行時間：10時～12時00分、13時～15時00分

所要時間：約10分、トラクターとけん引式台車で随時運行

定 員：トラクター台車1回10名乗車

乗降場所：さとらんどセンター前

料 金：大人300円、子ども200円

1月6日～2月25日迄の利用者数は1,913人。

7)スノーシュー貸し出し

冬期間の健康増進のひとつとして、スノーシューの貸出しを行い、園内の積雪の上を散策し冬にみられる野鳥や小動物、さとらんの冬の景色を楽しんでいただきます。

貸出し期間：1月6日から積雪期間中の2月25日、月曜日休館

ウ. キッズコーナー

1)実施方針

食育と木育をテーマとした、未就学児の利用を想定した、屋内の遊び場が完成するので利用者の安全、安心、快適を確保できるよう管理していきます。

2)実施状況

・事故対策

キッズスペースには子ども向けと保護者向けの注意書きを掲示しました。

・ケガ予防対策

角材で尖った部分に保護用カバーを付けケガをしないような対策を行いました。

破損が発生しやすい遊具については、定期的にチェックを行いました。

・不審者侵入予防対策

防犯カメラを設置し、定期巡回パトロールを行いました。

3)衛生対策

スペース内に置いてある遊具やおもちゃは定期的に消毒や除菌を行いました。

おもちゃの取扱について子どもたちや保護者に注意喚起する貼り紙などを掲示しました。

室内換気も定期的に行い、感染症対策にも努めました。

キッズコーナー利用者

	令和4年 10月～3月	令和5年	総計
大人	11,149	20,301	31,450
小学生以上	536	1,781	2,317
3歳以上	3,730	6,807	10,537
3歳未満	5,732	9,149	14,881
利用者数合計	21,147	38,038	59,185

エ. さとらんど HONEY PROJECT

1) 養蜂の実施調査

- ・養蜂の実施について情報収集を実施しました。
- ・令和6年7月に北海道農政部清算振興局畜産振興部に新規飼育の希望調査を提出することとなった。
- ・まずは1郡のみ試験的に令和7年4月に導入する予定

5 施設の利用等に関する業務

(1) 利用の促進に係る数値目標の設定

管理業務の仕様書に基づき、年間入園者札幌市目標指標の75万人を目指して以下のとおり数値目標を設定します。

項目	令和5年 実績	令和5年 目標	令和6年 目標	令和7年 目標	令和8年 目標	令和9年 目標
年間入園者数	710,000	600,000	650,000	675,000	700,000	750,000 (1,000,000 ※)
農業振興イベント入園者数	359,000	330,000	350,000	380,000	410,000	450,000
収穫体験参加者数	65,050	60,000	62,500	65,000	67,500	70,000
農学校入門コース参加者数	923	1000	1050	1100	1150	1200
栽培相談件数	4,725 件	3800 件	4,000 件	4200 件	4400 件	4600 件

ア. さとらんどの各施設の運営及び各室の貸し出しについての基本的な方針

施設利用等の案内、施設利用及び備品使用の申込受付、苦情や問い合わせの一次対応、その他来園者への対応業務を行いました。

使用の承認、不承認、利用料金の徴収、その他施設の利用等に関する業務を行い、利用の促進、利用率・満足度の向上に向けた取組を行いました。

上記のとおり、貸室の業務を実施しました。

イ. 具体的な業務の実施要領

1) 受付業務

- ・来園者に受付場所が容易に理解されるよう、さとらんどセンターや交流館にサイネージを設置し見やすい表示や案内看板を掲示しました。

- ・親切、明朗、公正に対応するとともに、速やかに用件を済ませられるよう、研修や実務対応による技術指導を通じて、接遇のスキルが向上しました。
- ・施設利用者に対して、施設の利用方法や利用上の留意点など、必要かつ十分な情報をホームページや園内アナウンス、案内看板などで周知しました。

2)使用の承認等

- ・さとらんどの利用に関しては、条例の別表に掲げる各施設の利用や貸室、レクリエーションの受付、使用の承認・不承認の業務を行いました。
- ・施設の使用に当たって、特別の設備を設け、又は特殊な物件を搬入しようとするときの当該行為の承認・不承認の業務を行いました。
- ・必要な場合は引き続き、使用承認等の条件の変更、施設の使用停止の命令又は使用承認の取消しの業務を行います。
- ・利用料金の徴収事務、利用料金の減額、もしくは免除又は還付に関する事務を行いました。減額・減免申請の都度、必要な書類の提出を求めました。
- ・販売行為などの承認を行いました。
- ・入園の制限(警備員による入場規制等)やその他の施設の秩序維持を行いました。
- ・さとらんどイメージキャラクター及びロゴマークの利用の許諾を行いました。
- ・利用料金の徴収は現金取扱い規定に基づき、事故の無いよう実施しました。
- ・施設が暴力団の活動に利用されないように、「暴排条例」に則り、必要な措置を講じました。
- ・映画・ドラマ・テレビ撮影等、市民利用に特段の支障がないため、承認を行いました。
- ・撮影対応担当者として、総務グループのスタッフを充て、撮影の申込受付、撮影の承認又は不承認の決定に係る事務や撮影の際に立ち会い・打合せを行いました。
- ・映画等の撮影の申込にあっては、FAX や電子メール等の簡便な方法も可能としました。
- ・条例により禁止されている行為の解除、又は条例及び要領により使用の承認につき疑義が生じた場合は、事前に札幌市へ相談いたします。

3)マナー啓発の取組み

- ・放置自動車及び放置自転車の防止、ゴミ捨ての防止、禁止行為及び迷惑行為の防止、条例に規定する禁止行為や迷惑行為の防止のため、各種注意看板の設置や案内放送、警備・パトロール巡回を行いました。

4)サービス向上の取組み

- ・来園者にとって、わかりやすいサインとするために、現状で統一感の欠いたサインを変更し、形状や設置場所を含めてサイン計画を立てます。
- ・さとらんどセンターや交流館において、来園者が気軽に休憩したり、飲食できるようにテーブルベンチ9台を新たに設置しました。
- ・来園者のアンケート2,000件以上を目標とし、2,124件の回答を得ました。さとらんどへのニーズを適切に把握し、積極的なサービスの改善、向上を進めました。

(2) 利用促進計画と実施状況

ア. 施設の利用を促進するための基本的な方針

5 年間での最終さとらんど来園者数目標 75 万人、イベント来園者数 45 万人を目指して、既存イベントのレベルアップ、魅力ある誘致イベントの実行などを進めていきます。初年度となる令和 5 年度は来園者数 71 万人、イベント来園者数 35 万 9 千人でした。

全道、全国のイベント情報などを入手し、さとらんどのイベントの改善につながるよう研究していきます。

また、冬期活用事業を大々的に展開し、冬の入場者を劇的に改善させます。12 月さとらんどセンター内にクリスマスツリーを設置しました。1 月は大鍋まつりを 7 日間実施し、来場者は 1 万 4 千人、2 月のかまくらイルミでは幻想的なイベントを実施し 1 万 4 千人が来場(7 日間)しました。引き続き、情報発信に努め、行ってみたいと思わせる企画を計画します。

イ. 具体的な業務計画の実施要領

1) 全国で持ち回り開催されている農業振興イベント、農業博覧会、企業の展示会などを引き続き誘致していきます。(鶏品評会、フラワーデザインコンテスト、園芸とアウトドア展示会、犬品評会、鉢花品評会、農業機械展示会、農業用ドローン展示会、チェーンソーアートコンテスト、農業資材展示会など)

2) 冬期活用事業の大展開 (前出)

事業例 (雪室の整備、雪まつり、親子の運動会、スノーキャンドル、イルミネーション、大型のクリスマスツリー、雪中キャンプ、かまくら、イグルーづくり)

このうち、実施した内容は親子運動会、イルミネーション、大型のクリスマスツリー、かまくらとなります。

3) 情報発信としては特に Instagram(SNS)を活用し、ファミリー層をターゲットにして注目度を上げました。

4) 東武トップツアーズなど観光業を巻き込んだ集客展開

同会社は丘珠あおぞら市のような既存の農業イベントに観光要素を加え、札幌観光の新コンテンツを作るプロジェクト『さっぽろファーマーズマーケット』観光コンテンツ化事業を計画。

①このため、(株)アド・ワン・ファームや(株)J ファームとともに「札幌農業の観光活用プロジェクト推進協議会」を設立し、2023 年度以降に実施を予定。

②さらに、札幌市が所掌するマルシェ事業とも連携し、一体的な観光のコンテンツ化を進める予定。

5) ふれあいの機会の提供

具体的には、「農ある暮らしを未来つなぐ」のテーマを鑑み、今後の未来につなげる担い手である 20～50 代の子育て世代に向けたアプローチが重要と捉えています。

そしてその世代にアプローチをかけるため、外部民間事業者であり、会員数 200 万人を超えた共通ポイントカード EZOCA との連携を図ります。道内の人口カバー

率は 40.1%を超え「2.5 人に 1 人」が所有。会員構成の特徴として 30～50 代女性が 62.4%と、高いカバー率となっており、子育て世代の女性が多いのが特徴です。
(主な提携店、サツドラ、ホクレンショップ、ジョイフルエーカーなど全道約 750 店舗)

①売店やレストランの利用率、利便性を上げるため EZOCA 導入

お客様が売店や受付でのお支払の際に、お買い物やご利用料金に応じて EZO ポイントが貯まることで、利用特典（サービス）の質を上げます。また、QR 決済等にも対応したレジ端末も売店等に導入を予定しておりましたが、令和 6 年度に導入いたします。

②EZOCA の SNS メディアを利用したさとらんのイベント等の情報発信と、さとらんど HP/SNS への誘導をします。

- EZOCA Twitter 約 6000 フォロワー

https://twitter.com/EZOCA_Official

- ezomama Twitter 約 3500 フォロワー

<https://twitter.com/ezomamaofficial>

6 管理業務に付随する業務

(施設ホームページのウェブアクセシビリティ確保) について

(1) 広報

広報 PR には様々な媒体があり、それぞれの媒体の特性や伝達対象を考慮し、適切な方法で広範囲かつ効率的、効果的に情報発信することで、施設の新規利用促進やリピーターの確保につながるように、以下のような広報活動を進めていきます。

情報提供方法

	印刷物	電信・電話媒体	その他
自主媒体	パンフレット リーフレット チラシ・ポスター さとだより ダイレクトメール	ホームページ 電子メール SNS (フェイスブック、 ツイッター、YouTube)	園内放送、看板 掲示板、案内板 サイン
購入媒体	新聞・雑誌 ミニコミ誌、タウン誌 折込チラシ	テレビ ラジオ	車内広告 駅の掲示板
パブリシティ	新聞・雑誌 ミニコミ誌、タウン誌	テレビ ラジオ	

連携発信	市町村広報紙 観光パンフレット	市町村・農業団体の HP へのリンク、情報掲載	観光案内版 交通広告
------	--------------------	----------------------------	---------------

ア. 施設パンフレットの作成

- ①園内の施設配置図、体験メニューの内容・料金、園内レクリエーションの内容と料金・運行時間など、さとらんど総合的な利用案内を記載したパンフレットを作成しました。
- ② パンフレットは、園内各所、区役所、まちづくりセンター、観光案内所、ホテルなどに配架を依頼し、観光
- ③ 客の誘致を図ります。

イ. 施設広報紙「さとらんど通信」の配布

- ①施設広報紙「さとらんど通信」を月 1 回定期的に作成・発行し、園内で開催されるイベント、収穫体験の旬の作物、市内近郊の農家、調理法などを紹介しました。
- ②このお便りは、園内各所、区役所、札幌市の公共施設に配布するとともにフェアに合わせて、ホームページや SNS に掲載しました。

ウ. ポスター・チラシ・デジタルサイネージの作成

- ①ポスター、チラシには、園内のタイムリーな話題、ガーデン情報、各種体験情報、イベントの告知、さっぽろ農学校の申込などを掲載し、わかりやすく伝えます。
- ②デジタルサイネージでは、主に農産物の紹介や札幌黄の栽培歴史について、農業情報を発信しました。

エ. インターネットによる広報活動

1)HP の作成

インターネットでのホームページでは以下の内容について掲載します。

園内の配置図、収穫体験や手づくり体験の内容と料金、各種申し込み、SL バス・馬車・引き馬、レンタサイクルの料金と運行時間、パークゴルフの利用時間や料金、開催イベントの情報、交通アクセス、園内で栽培されている作物、花の紹介情報、栽培の Q&A、さっぽろ農学校講義の概要、農作物の調理・保存方法など、スタッフのブログ、さとらんどへの問い合わせフォーム、ホームページのアクセス、利用状況の分析ツールを導入し、広報効果を最大限に発揮します。

2)SNS による情報発信

SNS を活用した情報発信を行います。

発信内容は、

- ・今日のさとらんどの見どころ
- ・花や野菜はどうなっているの
- ・ぐんぐんと畑を作ろう
- ・作物を育てるコツ

- ・ イベント情報
- ・ 収穫体験の様子
- ・ イベントの様子
- ・ 市内近郊農家の紹介、ゲストとして登場
- ・ スマート農業の見学
- ・ 市内の市民農園はどんなことしているの
- ・ 農業クイズ
- ・ SL バスに試乗してみたなど

3) インスタグラム

写真に特化した SNS であるインスタグラムを活用し、さとらんどの日常のひとコマを切り取り、写真と短いコメントで発信し、さとらんどの魅力を伝えました。

オ. マスメディアを活用した情報発信

新聞・雑誌・ミニコミ誌・タウン誌等やテレビ・ラジオの電波媒体に、施設紹介やイベント紹介を掲載し、施設の利用促進につなげました。

市政記者クラブや報道への露出回数を増やしました。

カ. 広報さっぽろへの掲載

公の施設の広報を考えるうえで、広報さっぽろは最重要広報手段です。札幌市の了解を得て、収穫体験やイベント情報などを発信しました。

キ. 施設外への PR キャンペーン

市内幼稚園、保育園、小学校への農業体験のチラシ配布など市内外での PR キャンペーンを実施しました。

(2) 施設ホームページのウェブアクセシビリティ確保

ア. 構築に係る作業スケジュール

新規サイトの立ち上げに約 4 か月かかるため、12 月の決定後速やかに対応を進めます。

イ. サイト構築後の新規ページ作成・ページ修正時におけるアクセシビリティ確保の方策

- ・ コントラスト比チェック「Color Tester」
- ・ Alt 属性チェック「Ah&M e t a viewer」(chrome 拡張機能)
- ・ CSS 無効化チェック「CSS 無効化くん」(chrome 拡張機能)
- ・ ページタイトル・リンク切れチェック「Website Explorer」
- ・ みんなのアクセシビリティ評価ツール「miChecker」
- ・ スクリーンリーダー「NVDA 日本語版」

などのツールを使って、作成時、修正時にチェックをかけることを義務付けます。

ウ. 試験実施予定時期及び方法

3 月初めから 3 月末にサイトデータをすべてダウンロードして、適宜修正を加えていきます。

エ. アクセシビリティ維持・向上の取組（職員研修・利用者からの意見収集等）

ホームページに利用者からの意見収集フォームを設置します。また、定期的にウェブアクセシビリティについての研修会を開催します。

札幌市身体障害者福祉協会に、意見を聴取し、改善につなげていきます。

オ. ウェブアクセシビリティの問題が発生した場合における対応方法等

逐次、提携するウェブ専門業者に依頼をして、対応します。

カ. 過去のウェブアクセシビリティ対応実績

現在管理している公園のホームページは適合レベル AA です。新規サイトにおいても引き続き AA のレベルを維持していきます。

（3）引き継ぎ業務

業務引継ぎをスムーズに行い、令和 5 年度からの業務を円滑に遂行するため、指定を受け次第速やかに「コンソーシアム開設準備室」を立ち上げ、現管理者との業務引継ぎやスタッフの雇用準備及び新年度事業の準備対応に着手しました。必要事項の記載された業務引継ぎ書をもって、さとらんど利用者の利便性を損なわないよう、関係機関と協力して円滑な引継ぎ対応に努めました。業務引継ぎ書は、写しを札幌市へ提出しました。

7 札幌市内の企業等の活用について

（1）札幌市内企業等の活用についての考え方

物品の購入、また外部への委託等については、質の高いサービスの提供及び問題発生時の迅速な対応のため、札幌市内の企業・団体を優先的に活用しました。

ア. 札幌市内の企業・団体を活用する理由

- ・優秀な技術、商品等をより早く入手するため
- ・地域の経済発展へ寄与するため
- ・高品質な技術や優良製品・商品を市民に触れる機会を増やすため
- ・問題発生時の迅速な対応を確保するため

イ. 札幌市内の企業・団体の中で優先事項

- ・福祉施設・団体等が生産する物品（花苗、手づくり商品、印刷など）であること
- ・環境に配慮した、商品・技術を有していること
- ・障がい者の社会参加、就労支援などに積極的であること
- ・札幌の風土を、暮らしの中に生かされている「札幌スタイル製品」であること。以

下のような具体的な取組により、札幌市内企業等を積極的に活用し、さとらなどの管理運営における「札幌の産業・経済版地産地消」を推進していきます。

(2) 活用に向けた具体的な取組

- ・警備、特殊点検など専門性が求められる業務については、札幌市内の企業・団体に委託し、より質の高いサービスの提供に努めました。
- ・売店の販売員については、特に福祉施策に積極的に取り組む企業を優先しました。
- ・入札によらない簡易な委託業務においても、業務実績(営業許可・免許確認を含む)、資格保有(専門資格の有無)、業務体制(緊急対応・バックアップ体制)、適正コスト、企業信用力などを勘案し、数社による見積もり確認を行い、適正な札幌市内業者を選定し、管理経費の縮減を図りました。